

## 高松第一高等学校 未来への学び 評価ルーブリック（文系・音楽科講座用）

		不十分 (1)	もう少し (2)	ほぼ十分 (3)	十分 (4)
①内容	課題の調査内容の深さ	説明内容自体が少ない。抽象的な内容で、具体性に欠ける。	多く説明しているが、全体の概要説明が中心で、具体例、一場面の解説・説明がほとんどない。	データの引用を行って述べている。具体的事例や一場面の解説・説明はあるが、踏み込みが浅く、聞き手に疑問点が残る。また、イメージが十分伝わってこない。	自ら調査したデータを用いて述べられている。また具体的事例（地歴）や一場面・1フレーズの丁寧な解説（音・国）、具体的な場面の説明（体・国）がある。
	論理性	雑多な構成で、結論や提案内容をしっかり述べられていない。	ねらいと結論・提案内容に一貫性があまりない。途中過程も十分述べられていない。	テーマがはっきり提示できている。また、ねらいと結論・提案内容に一貫性がある。途中過程に飛躍があり、過程の説明が不明瞭。	テーマがはっきり提示できている。ねらいと結論・提案内容に一貫性がある。途中の過程についても説明がされている。
	独創性・工夫	意見や考えが述べられていない。	意見や考えを述べられているが、一般的に見られる意見などと同じで、新しさが無い。	自分たちの意見や考えを述べられている。その意見や考えに新しさが余り感じられない。または、共感できない部分が比較的多い。	自分たちの意見や考えを述べられている。その意見や考えに共感や新たな発見がある。
②資料	構成・配置	引用文をそのまま用い、自分たちの言葉でまとめられていない。	文章中心で、絵・図が用いられていない。	絵・図など視覚的な要素を取り入れている。文章は端的に表現され、大きく見やすい。	絵・図など視覚的な要素を取り入れている。色やアニメーションなど効果的に用いている。文章は端的に表現され、大きく見やすい。
③表現・態度	聞き取りやすさ・発表態度	聞き取れない場面が所々見られる。手元の原稿を見ながらの発表が中心である。	聞き取れるものの、全体的に声が小さく、原稿を見ながらの発表が中心である。	発表者のうち、半数以上が聞いている人の方を見て、大きな声で発表できている。また、資料を指し示すなど、効果的に資料を用いている。	発表者全員が、聞いている人の方を見て、大きな声で発表できている。また、資料を指し示すなど、効果的に資料を用いている。